

FMFプログラム  
アメリカの教員が来水

今年6月、フルブライトメモリアル基金の交流事業の一つ **Teacher Program** により、アメリカ合衆国の教員20名が来水、市内の小・中学校、高校、大学を訪れたほか、市民宅へのホームステイを体験しました。

1996年、\*フルブライト交流計画の創立50周年を記念して、日米両国間の人物交流を促進し、友好と相互理解を更に深めるため、フルブライトメモリアル基金(FMF)が設立されました。

FMFの中心事業の一つ、米国教員等受入れプログラム(**Teacher Program**)は、1997年から5年間にわたり数千人のアメリカ人の初等及び中等教育者を招へいする事業です。



石川中学校での家庭科授業体験

今年、全米各地の教員200名が、3週間の研修期間でグループ別に日本各地を訪れ、教育関係者、生徒や地元企業、地域の人々と草の根レベルで交流しました。

水戸市には、その内20名が6月21日から30日までの10日間滞在し、梅ヶ丘小学校、石川中学校、桜の牧高校、茨城大学の各学校を訪問して授業を参観するなど、PTAや生徒との交流を深めました。

また、市民宅へのショートステイも行われました。日本の日常生活に触れることができ、貴重な体験ができた、と喜んで帰国しました。



レセプションパーティーの1コマ

\* フルブライト交流計画とは…

1946年、当時の上院議員フルブライト氏の提唱により発足した人物交流プログラム。日米間では1952年から始まり、現在ではそれぞれ年間60名以上の人物交流が行なわれている。世界で約150ヶ国が参加、これまでに20万人以上の学生、研究者の留学を支援し、人材の育成に成果を挙げている。

Waterloo City Journal

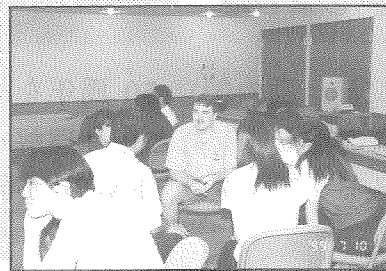
## 水戸市&アナハイム市 学生親善大使

水戸市と国際親善姉妹都市アナハイム市の間で、学生たちが親善大使として行き来するようになって、早10年以上が経過しました。

### アナハイム市学生親善大使

最初の学生親善大使はアナハイム市から。1985年、当時のアナハイム姉妹都市委員会と両市のソロブチミストの協力で第1回の親善大使が来水。以後、28人が水戸市を訪れました。今年は4名が7月上旬の2週間滞在し、水戸を、日本を満喫しました。

アナハイム市から訪れる学生たちの目的は実に様々ですが、彼らに共通しているのは日本に対する強い興味です。今年の親善大使、トーマス・ガラズくんもまた、熱心に「日本」を学んで帰った1人。彼が帰国後、インタビューに答えた記事を次ページに紹介します。



水戸市学生親善大使研修会で  
両市の親善大使の交流風景

### 水戸市学生親善大使

一方、水戸市からは1988年に第1回の学生親善大使が渡米。当時の委員長ジューン・ローリー氏を始めとするアナハイム姉妹都市委員会の受け入れに、水戸市と国際親善都市交流促進協議会が応え、第1回団長以下21名が派遣されました。以来252人がアナハイム市を訪れました。

彼らは、ホームステイや現地の高校の授業を体験してアメリカについて多くを学んでいます。それによって、思いのほか知らない「日本」、そして「水戸」についてももっと深く考えるようになります。

水戸市学生親善大使は、帰国後、滞米中のさまざまな事柄を記録集にまとめています。歴代の親善大使の記録集は、水戸市国際交流センターで閲覧することができます。

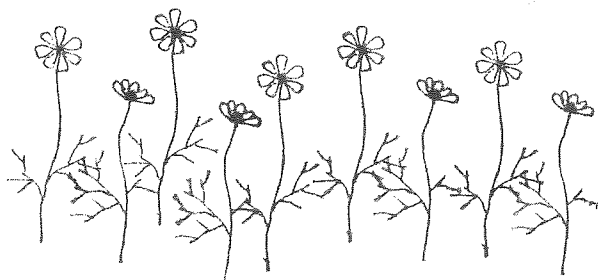
まもなく今年の記録集も完成します。その中で、親善大使の1人は、「私自身もこの17日間のホームステイを通して、これまでの自分を見つめ直し新しい目標を見つけることができた」と述べています。どのような2週間を過ごしたのか、日誌のほんの一部ではありますが、紹介します。

~~~~~

7月23日 到着

27日 授業・市議会訪問

「Host Motherに『アナハイムの市議会はどうかだった?』と聞かれたけど、水戸の市議会に行ったことのない私はかなり困りました。するとうちのHost Motherは水戸の市議会に行ったことがあるというのでビックリ! この日もまた、自分の市、国に対する知識のなさに、自分を情けなく思った一日でした。」



28日 スイムパーティー



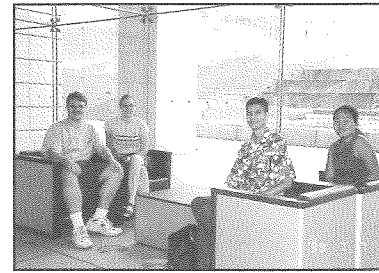
授業後、Swim Partyではしゃぐ。

31日 ファミリータイム

「ビーチには人はたくさんいたけど、本当に広々とした感じ。みんなが自分達のやりたい事を自由にやっていることが印象的だった。」

8月 7日 滞在最終日

「いつもはにぎやかなバスの中が信じられないくらい静かだった。」



アナハイム市学生親善大使  
左から ジョンくん、アビーさん  
トーマスくん、リンダさん

アナハイム市学生親善大使トーマス・ガラズくんが、帰国後、アナハイムの雑誌のインタビューに答えています。一流シェフを志す彼は、調理や盛り付けの方法などがアメリカと大きく違う日本の料理に、非常に興味を覚えた様子です。

この記事では、現在の姉妹都市協会長であるヘイスティング氏も、水戸市との関わりや学生親善大使について語っています。また、トーマスくんとともに水戸を訪れたジョン・エノクくんについても掲載されていますので全文をご紹介します。

## EMBRACING THE WORLD

### Sister City Exchange Sends Students Abroad to Gain Global Perspective on Local Issues

What impressed Thomas Galaz most was the way the chef was able to improvise with the ingredients. "Most Mexican dishes use cilantro, but he substituted with parsley, which is more common there. It was still Mexican cooking, but he gave it a Japanese interpretation."

The 18-year old Galaz is an aspiring restaurateur and on-call chef at the Hyatt Regency Alicante Hotel. Accompanied by Katella High School's John Enoch, and Linda Kim and Abby Winnick of Loara High School, the four ambassadors toured Mito, Japan in an educational exchange sponsored by Anaheim's Sister City Association.

The Association promotes contact with diverse peoples to create a wider understanding of world cultures. Such visits with counterparts in another culture who share similar interests promote a better understanding of one's own community. Since 1984, the Association has sent 23 students to Mito as part of the student exchange program.

"Our committee was so impressed with the caliber of students this year that we decided to send four students to Mito, which is our largest group to date," says Anaheim Sister Cities President Greg Hastings.

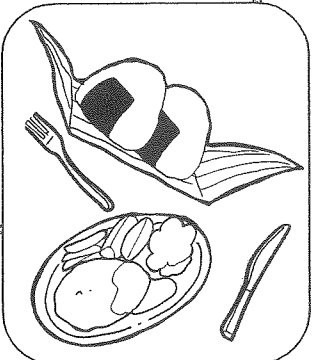
In 1976, Mito and Anaheim forged a formal Sister City relationship. Since then, residents from each city have made annual trips to the other. Both cities bear a number of similarities, including comparable size, population and climate. Tourism is as important in Mito as it is here. Though half a world away, both also know the dangers of

earthquakes. As recently as March, Mito registered a 5.1 quake.

It was that resemblance to California that prompted John Enoch to research Japanese strategies for earthquake preparedness. Though host families plan many enjoyable recreational activities, the focus of the trips is on learning. Later this month, the ambassadors will report back to the Association with their findings on various topics. Enoch's presentation on Mito will include a webpage with lessons learned from Mito and their application to Anaheim's state of earthquake preparedness.

Anaheim reciprocated the exchange earlier this month by hosting 20 student ambassadors from Mito. "The benefit of the exchange is that the students get a firsthand look at a different culture," says Hastings. "It's one thing to study another culture by reading books and taking language lessons. It's a whole other experience to be immersed in that environment and see it through the eyes of your host family. Our Japanese guests are always amazed when they experience the diversity of cultures in Anaheim. We are like a microcosm of the world."

As for Galaz, that trip to Mito was his first major excursion into a different culture. Already, he is making plans a return trip next year. "I learned a lot about the Japanese style of preparing and presenting food, but there's so much more. I want to go back next year on my own."



\* なお、この記事はアナハイムの情報誌「Anaheim」1999. FALL号に掲載されたものです。



# インフォメーション

## 『CITY MAP MITO』発行のお知らせ

英文版水戸市地図『CITY MAP MITO』の改訂版を年内に発行いたします。また、『水戸の生活ガイドブック』（緊急時の対応など、外国人の水戸での生活に役立つ情報が満載です）もごさいます。無料で提供しておりますので、ぜひ、あわせてご利用ください。

発行日など詳しいことはお問い合わせください。

## 水戸市国際交流協会

### インターネットホームページ

水戸市国際交流協会ホームページを開設しています。皆さまのアクセスをお待ちしています。(アドレス：<http://www.mitoic.or.jp/>)

## どうようサロン

毎月第1、第3土曜日に水戸市国際交流センター2階で開催しています。お茶を飲みながら、世界各国のみなさんとおしゃべりしてみませんか。外国からの皆さんには、3分間無料でご利用いただける国際電話「ふるさとでんわコーナー」などもごさいます。予約は必要ありません。当日、直接センターへおいでください。

\*\*\*\*\*

## 今後の行事予定

- |        |    |                          |
|--------|----|--------------------------|
| 11年11月 | 上旬 | 南イタリアの家庭料理教室<br>(市民対象)   |
|        | 上旬 | 世界の文化遺産講座 (市民対象)         |
| 12月    | 上旬 | 日本料理教室 (外国人対象)           |
|        | 中旬 | クリスマスパーティー<br>(市民・外国人対象) |
| 12年2月  | 上旬 | 市内ウォッチング (外国人対象)         |
|        | 下旬 | ショートホームステイ<br>(留学生対象)    |

## 相談受付

相談者は外国人、日本人を問いません。秘密厳守で応じています。直接センター事務室へ、またはお電話でどうぞ。

## メモリアルプレート募集について

これまで国際交流センター開館記念メモリアルプレートには、多くの方々にご協賛いただきました。ありがとうございました。

まだ、余裕がございますので、メモリアルプレートの募集を引き続き行なっております。センター通路に敷き詰める石板と駐車場壁面に貼る陶板の2種類があります。国際交流に限らず、好きな言葉やお名前を入れて記念に残してみませんか。文字数など詳しいことは協会へお問合せください。

機関紙へのご意見をお待ちしています。機関紙のコーナー、特集で取り上げて欲しい記事など、何でもお寄せください。

〒310-0024 水戸市備前町 6-59  
水戸市国際交流センター内  
(財) 水戸市国際交流協会  
Tel : 029-221-1800 Fax : 029-221-5793  
E-mail : [mcla@mito.ne.jp](mailto:mcla@mito.ne.jp)

## 水戸市国際交流センター案内図 Area Map & Transportation Guide

